

活動名：第5回福島空港公園8人制ジュニアサッカーフェスティバル

日程：平成26年8月30日（土）～31日（日）

会場：福島空港公園 緑のスポーツエリア

参加：ガールズ/トップ5クラス 12名

帯同：小松コーチ

報告：小松コーチ

結果：4位（6チーム参加）

●喜多方東コラソン ●中央ドリマ ○猪苗代

●Allez トップ6 △小野FC

今年はガールズ担当させて頂きながらこの空港杯8人制サッカー大会に参加する機会に恵まれました。

空港杯はご存知の通りクラブ代表の設楽コーチの職場の管理施設の大会です。

今年はピッチの改修工事が済んだ素晴らしい恵まれた環境での戦いとなりました。もちろんフットサルコートも着々と改修を進めています。

そんな大会を乗り切るメンバーはガールズが中心となって5年生4名トップ5年生活動4年生4名で戦いました。

ガールズは6年生3名5年生2名でした。

基本的にはガールズ6年生が全面に出た戦いをした上でのガールズT5連合と言う名前でしたが…そこはなかなかうまくはいきませんね。

さて戦いは、名前のごとく6年生ガールズをキャプテンに据えチームをまとめるにもなかなか融合はせず個人戦術の高い選手になると学年と言う枠であてにはしてなく個人で打開を頭に置いて戦っていました。

アーレは個人スキルアップ専門を指導理念としていますがこれに社会性がなければただのわがまま的なプレーや1人よがりになりかねません。

どこまで行っても日本人は日本人、常に社会性だけは要求していました。

その結果、要のキーパーをかって出る選手が居てくれたりと何とかやりくり出来ました。特に5年生こたろう君は一生懸命取り組んでくれました。

アーレ同門対決ではまさか!こんなタイミングで!こんなところから!こんなコースに!が何本も決まりましたがそれでも試合を捨てず試合に食らいついていったのは彼らしいプレーでした。

確かにレベルが技術の差が明確で合っても腐らず素直に真摯に食らいつけば必ずや追いつけ追い越せになる事でしょう。この敗戦の学びが明日の糧です。

また今年のガールズは昨年の闘うガールズと違うイメージでいい意味で本当の愛情に包まれたガールズ、女子会友の愛が散りばめられたガールズでガールズ自体の選手同士結び付きは強いもののなかなかそれが試合で生きない生かせない生かすことが出来ないとなってしまうのでした。

やはりガールズ女子会友の愛では限界もあるでしょう。しかし今ここで戦いの厳しさや戦いへの頑張り戦うことへのあきらめない気持ち腐った戦いとはを学ばなければ中学校では適性により専門が入り戦うすべての意味すらわからなくなってしまいう可能性が
あります。

あえてそこは厳しく指導し気持ちにはっぱをかけました。

時にはスイッチが入り闇雲にボールへ食らいつく選手が居るかと思えばある選手は頭が痛いと自分に甘え出す始末です。

そんな選手に何度となく戦いとは？自問自答させ最後の2分ぐらいなら行けますと言ってもらいその2分間で何かが起こり変われると期待しましたが結果的にボールをよけながら追っかけていました。

もちろん試合には完敗です。

完敗でいいですが自分自身にも完敗でいいのでしょうか？

試合後ある選手の保護者と話をするタイミングがあり話をさせて頂きました。

その保護者は、そんな事だろうと思いましたが…。キツク言ってやって下さいと言われてましたが私はコーチがそれを言ったらやらされているになってしまうんですとだけ伝えました。その後保護者は私を信じてくれた目で見えてわかりましたと言ってくれました。

次の日の特練ガールズでその保護者の娘は即席チームのキャプテンを任せられガールズ今年アーレ公式戦発のシュートを決め最優秀賞を受賞したメダルを涙目になりながら、私にはこのメダルはふさわしくないと返却をして来ました。

少しだけ戦いについて学んでくれた瞬間でした。

本人言うには男の子に文句を言われる自分を考えるとどうしても戦えなかったと語り出しました。

本当にその通りでしょう。間違いありません。それでも戦うのです。それでもあきらめず立ち向かうのです。その意味をちょっぴり理解してくれました。

もちろんその影にはスイッチが入ってゴール前に迫りあわよくばシュートまでと闇雲に頑張るガールズ選手がもう1人居ました。その彼女の悔しさと言ったらそこはガールズ友の愛ではありません。

戦いの何たるかを持ち得た戦士、選手が居ました。

しかしこれも一過性のものなら仕方ありませんね。

育成とは本当に難しいものです。

気持ちを燃やす炎も大切です。大切ですがその炎を持続させより大炎にさせるのも本当に大切なことを私自身また学ばせて頂きました。

そんな持続させた炎で設楽コーチの娘千夏ちゃんは県代表の切符を手に入れました。

そうま君は東北大会へ駒を進めて来ました。

先輩達が出した結果は今のタイミングの礎を築き上げてのことだと思います。

勝負事なので勝ち負けはあります。

試合に負けても自分自身に負けてはほしくはありません。

頑張れガールズ。

頑張れ選手達。

またガールズチームの生命線的4年生コンビにも少し触れます。

彼らは前後左右の関係をうまくとりこのチームを戦いへと導いていました。

今はまだ実名は伏せて置くこととします期待を込めて。

良く引っ張ってくれてましたね。

ただし持ち前の性格をもっともっと磨き上げましょう。それが近道となる事だけは伝えておきますね。

それは設楽コーチを観てればおのずと答えが出るからです。

答え待ってます。

では2日間楽しい時間をありがとうございました。

保護者の皆様本当にお世話になりました。





